

# ソフトバンクグループの大規模特許公開：技術戦略と市場競争力への影響

Gemini Deep Research

## 1. はじめに

ソフトバンクグループは、通信、投資など多岐にわたる事業を展開する世界的なテクノロジーコングロマリットです。企業の技術革新の方向性や将来の戦略を示す重要な指標の一つに、特許の公開があります。この度、2025年4月4日にソフトバンクグループが3500件を超える特許を一挙に公開したことが報道されました<sup>1</sup>。また、note.comの記事では、これらの特許のうち1794件について詳細な分析が行われています。本稿では、これらの特許公開に関する情報を分析し、ソフトバンクグループの技術的な焦点、過去の特許公開の傾向との比較、主要な事業領域との関連性、注目すべき技術、生成AIとの関連性、競合他社との特許戦略の比較、そして事業戦略と市場競争力への潜在的な影響について考察します。今回の特許大量公開は、同社の今後の事業展開を理解する上で極めて重要な出来事と言えるでしょう。

今回の特許公開に関する日経XTECHの記事は残念ながらアクセスできませんでしたが、そのタイトル「ソフトバンクGの特許が2日で一挙に3500件超公開、発明の名称と出願人から浮かぶ焦点」<sup>1</sup>から、記事は特許の発明の名称と出願人という観点からソフトバンクグループの注力分野を明らかにしようとしていたことが伺えます。特許の名称には、発明の目的や主要な技術要素が凝縮されていることが多く、これらの情報を分析することで、企業がどのような技術領域に力を入れているかを推測することが可能です。また、出願人がソフトバンクグループ株式会社であることが確認できれば、分析対象の特許群が同社の技術開発戦略を直接的に反映していると見なすことができます。ウェブサイトが利用できないため、[本報告書の分析は主にnote.com](#)の記事に基づいて進めることとなります。

## 2. 提供された記事における強調点

### 2.1 note.com の記事の詳細分析

note.comの記事<sup>3</sup>は、ソフトバンクグループ株式会社が公開した1794件の特許出願書類に基づいて、詳細な分析結果をまとめたものです。記事では、「出願人」の情報、それに関連する出願動向、技術分野、課題認識、解決手段の特徴などが詳細に検討され、ソフトバンクグループの特許戦略や技術開発の方向性について考察がなされています。分析対象となったデータは、各出願の要約（課題、解決手段、選択図）、出願日、

出願人を含んでいます。

分析の結果、全 1794 件の特許出願において、出願人は「ソフトバンクグループ株式会社」であることが確認されました<sup>3</sup>。これは、今回の分析対象となった特許群が、すべてソフトバンクグループによって出願されたものであることを明確に示しています。ソフトバンクグループは、日本を拠点とする世界有数のテクノロジー投資会社であり、近年では特に AI（人工知能）関連技術やサービスへの投資・開発に注力していることが改めて示唆されています。

出願動向の分析によると、特許出願日は特定の期間に集中しています<sup>3</sup>。具体的には、2023 年 9 月 20 日に 484 件、2023 年 9 月 21 日に 826 件、2024 年 9 月 18 日に 225 件、2024 年 9 月 19 日に 250 件の出願が確認されています。このように特定日に大量の特許出願が集中する現象は、戦略的な一括出願、社内イベントやプロジェクトの成果、出願体制の整備、技術開発の加速といった可能性を示唆しています。特に、2023 年 9 月に集中的な出願が見られる点は注目に値します。

技術分野の分析は、特許の要約に含まれる「課題」と「解決手段」の内容に基づいて行われています<sup>3</sup>。その結果、ソフトバンクグループが注力している主要な技術キーワードとして、「生成 AI」「感情エンジン」「ユーザー」「システム」「提案」「学習」「認識」「自動」「支援」「最適化」などが頻繁に出現しています。これらのキーワードから、以下の主要な技術分野への注力が明らかになりました。

1. **生成 AI 技術（中心技術）**：テキスト、画像、音声、動画、3D モデルなど、多岐にわたる対象を生成する技術。
2. **感情分析技術（感情エンジン）**：ユーザーの感情を認識・分析し、サービスに応用する技術。
3. **ユーザーインターフェース・エクスペリエンス関連技術**：スマートデバイスを介したインタラクションや情報提供に関する技術。
4. **コミュニケーション支援技術**：個人間、ビジネス、人間と AI 間のコミュニケーションを円滑化・効率化する技術。
5. **ヘルスケア・ウェルネス関連技術**：健康データの収集・分析、個別化されたプラン提案、病気リスク予測など。
6. **モビリティ・自動運転関連技術**：自動運転車両内での情報提供、ナビゲーションシステムの高度化など。
7. **業務効率化・ビジネス支援技術**：レポート作成、資料作成、議事録作成など、企業活動における様々な業務の効率化・自動化。
8. **エンターテインメント・コンテンツ生成技術**：ゲーム開発支援、音楽生成、動画編集、アバター生成など。

9. **社会課題解決型技術（高齢者支援、子育て支援、防災など）**：高齢者の見守り、子育て支援、防災・災害対応など。
10. **その他**：メタバース、セキュリティ、金融、広告など多岐にわたる分野。

技術内容の詳細分析では、課題認識の傾向として、ユーザー体験向上、業務効率化・生産性向上、コミュニケーション円滑化、健康・医療・介護、社会インフラ・社会課題、新規サービス・コンテンツ創出に関する課題が幅広く認識されていることが示されます<sup>3</sup>。解決手段の特徴としては、生成 AI の圧倒的な活用、感情エンジンの活用とパーソナライズ、多様な技術要素の組み合わせ（センサー、ロボット、スマートデバイス、メタバース、ブロックチェーンなど）、そしてシステムとしての包括的な解決策の提示が挙げられています。

ソフトバンクグループの特許戦略に関する考察として、記事は生成 AI を核とした全方位的な技術開発、ユーザー中心設計とパーソナライズの重視、社会課題解決への強い意識、大量集中出願戦略、そして将来の事業展開への布石を示唆しています<sup>3</sup>。

### 3. 推測される技術的焦点と研究開発の方向性

note.com の記事<sup>3</sup>の分析に基づくと、ソフトバンクグループの研究開発の中心には、間違いなく生成 AI 技術が存在していると言えます。テキスト、画像、音声、動画、3D モデルといった多様なメディアの生成技術は、同社が今後展開するであろう様々なサービスやアプリケーションの中核を担う可能性を示唆しています。特に注目されるのは、「感情エンジン」技術への強い関心です。ユーザーの感情を認識し、その分析結果をサービスに応用するというアプローチは、より人間的でパーソナライズされたユーザー体験を提供することを目指していると考えられます。

さらに、ユーザーインターフェースやエクスペリエンスの向上、コミュニケーション支援、ヘルスケア、モビリティ、業務効率化、エンターテインメント、社会課題解決といった広範な分野での技術開発が進められていることから、ソフトバンクグループが単一の技術領域に留まらず、AI を基盤として多角的な事業展開を視野に入れていることがわかります<sup>3</sup>。センサー、ロボット、メタバース、ブロックチェーンといった他の先進技術との組み合わせも積極的に検討されており、これらの技術を融合することで、より革新的で包括的なソリューションの創出を目指していると考えられます。ソフトバンクグループの研究開発の方向性は、AI をあらゆる事業の根幹に据え、ユーザー体験の向上、効率化の推進、そして社会的な課題解決に貢献するインテリジェントなシステムとサービスの実現に向けられていると推測できます。

### 4. ソフトバンクグループの過去の特許公開傾向との比較

2025年のソフトバンクグループの特許出願公開件数ランキングにおいて、5694件で第1位となっているデータ<sup>2</sup>は、2024年の第47位（552件）と比較して、驚異的な増加を示しています。これは、今回の特許公開が過去と比較して極めて異例かつ大規模な事例であることを明確に示しています。一方で、別のデータ<sup>4</sup>では、2025年のランキングは第14位で公開件数は268件、2024年は第47位で552件となっており、数値に差異が見られます。この違いは、データの集計期間や対象範囲によるものと考えられますが、いずれにしても2024年と比較して2025年の公開件数が大幅に増加している傾向は共通しています。

過去5年間の特許出願件数に関する情報<sup>5</sup>によると、最も出願件数が多かった年は2024年の396件であり、2019年から2024年までの平均出願件数は139件です。このデータと、2025年4月だけで3500件を超える特許が公開されたという事実<sup>1</sup>を比較すると、今回の大量公開が過去の傾向を大きく上回る特異な事例であることが明らかです。さらに、4月1日に約310件、4月2日に約1800件、4月3日に1794件の特許が公開されたという情報<sup>3</sup>から、実際には数日にわたって大量の特許が段階的に公開されたことがわかります。これらの公開件数を合計すると3904件となり、日経XTECHの記事で言及されている「3500件超」という数字と整合します。

これらの情報を総合的に見ると、2025年4月のソフトバンクグループによる特許の大量公開は、過去の年間出願件数を遥かに凌駕するものであり、同社の知財戦略において特筆すべき出来事と言えるでしょう。

表 1: ソフトバンクグループの過去5年間の特許公開件数

年	特許公開件数 (件)	ランキング	注記
2021年	0	-	過去5年間で最少
2022年	89	-	
2023年	342	-	
2024年	396 (552)	47位	過去5年間で最多(データソースにより差異あり)

2025 年	268 (5694)	14 位 (1 位)	大幅な増加 (データソースにより差異あり)
--------	------------	------------	-----------------------

(注：ランキングと公開件数はデータソース<sup>2</sup>により差異があります。表中の数値は入手可能な情報をまとめたものです。)

## 5. ソフトバンクグループの主要な事業領域と公開された特許の内容との関連性

ソフトバンクグループは、コンシューマ事業、エンタープライズ事業、ディストリビューション事業、メディア・EC 事業、ファイナンス事業の 5 つの主要な事業分野を中心に、多岐にわたるビジネスを展開しています<sup>7</sup>。これらの事業領域と、今回公開された特許の内容を照らし合わせることで、ソフトバンクグループが各事業をどのように進化させようとしているのか、あるいは新たな事業領域への進出を模索しているのかが見えてきます。

生成 AI 技術は、ほぼすべての事業領域に横断的に関連する可能性があります<sup>3</sup>。例えば、コンシューマ事業においては、AI を活用したパーソナライズされたモバイルサービスや顧客サポートの高度化、エンタープライズ事業においては、AI による業務効率化ソリューションや新たな法人向けサービスの開発が考えられます。メディア・EC 事業では、AI によるコンテンツ生成やレコメンデーション機能の強化、ファイナンス事業では、AI を活用したリスク管理や顧客分析などが想定されます。

感情エンジン技術は、特にユーザーとのインタラクションが重要な事業領域、例えばコンシューマ事業やメディア・EC 事業において、より高度な顧客体験を提供するために活用される可能性があります<sup>3</sup>。ユーザーの感情をリアルタイムに分析し、それに応じてサービスの内容や提供方法を最適化することで、顧客満足度の向上やエンゲージメントの強化が期待できます。

ヘルスケア・ウェルネス関連技術や社会課題解決型の技術は、既存の事業領域の枠を超えた新たな展開を示唆しているかもしれません<sup>3</sup>。高齢者支援や防災といった分野への AI の応用は、社会貢献という側面だけでなく、新たなビジネスチャンスの創出にもつながる可能性があります。モビリティ・自動運転関連技術への注力は、将来のスマートシティ構想やコネクテッドカーといった分野への関与を示唆していると考えられます。

このように、今回公開された特許群の内容は、ソフトバンクグループの既存の事業領域

の深化と拡大、そして新たな事業領域への進出という両面を示唆しており、同社が AI 技術を核として、広範な分野でイノベーションを推進しようとしていることが伺えます。

## 6. 公開された特許群の中の注目すべき技術や将来の事業展開の示唆

note.com の記事<sup>3</sup>で分析されているように、今回の特許群の中には、将来の事業展開を具体的に示唆するような注目すべき技術が多数含まれていると考えられます。特に、生成 AI を活用したテキスト、画像、動画、3D モデルなどのコンテンツ生成技術は、メディア・EC 事業やエンターテインメント事業において、新たな価値創造の源泉となる可能性があります。デジタルギフトの生成、アバターの作成、シミュレーション動画の制作などは、これらの技術の応用例として考えられます。

また、プロンプト生成・最適化技術は、生成 AI の性能を最大限に引き出すための重要な要素であり、これにより、より高度で意図通りのコンテンツ生成が可能になるでしょう。行動パターン、市場動向、健康状態などの分析・予測技術は、様々な事業領域における意思決定の高度化やリスク管理に貢献することが期待されます。旅行プラン、治療計画、トレーニングプランなどの計画・提案技術は、パーソナライズされたサービスの提供を可能にし、顧客体験を向上させる可能性があります。業務プロセス、コンテンツ生成、設備配置などの自動化技術は、生産性の向上やコスト削減に大きく貢献することが期待されます。

さらに、感情エンジンと他の技術要素（センサー、ロボット、スマートデバイス、メタバース、ブロックチェーンなど）との組み合わせは、より複雑でインタラクティブなシステムの開発を可能にするでしょう。例えば、感情を理解するロボットによる介護支援、メタバース空間における感情連動型アバターの実現などが考えられます。システムとしての包括的な解決策の提示は、ソフトバンクグループが単なる要素技術の開発に留まらず、実用的なアプリケーションやプラットフォームの提供を目指していることを示唆しています。これらの技術は、ソフトバンクグループが今後、様々な分野で革新的なサービスや事業を展開していくための強力な基盤となることが予想されます。

## 7. ソフトバンクグループおよび孫正義氏の生成 AI を活用した特許出願に関する考察

ソフトバンクグループおよび会長である孫正義氏は、生成 AI を活用した特許出願に非常に積極的な姿勢を示しています。2023 年 10 月には、ソフトバンクグループ全体で過去数ヶ月間に 1 万件以上の生成 AI 関連特許を出願したこと、そして孫氏個人も 1000 件を超える特許出願を見込んでいることが発表されました<sup>8</sup>。2023 年 9 月に

は、特許庁への出願件数が例年より大幅に増加しており、これは孫氏の宣言と時期が符合することから、ソフトバンクグループによる生成 AI 関連技術の大量出願が原因ではないかと推測されています<sup>9</sup>。

今回の 3500 件を超える特許の大量公開<sup>1</sup>は、これらの積極的な特許出願戦略の具体的な成果として捉えることができます。特許出願から公開までには通常 1 年半程度の期間を要することから、2023 年 9 月頃に集中して出願された特許の一部が、2025 年 3 月以降に順次公開されていると考えられます。今回の大量公開は、孫氏が提唱する AI 技術への強い注力と、それを具体的な知的財産として保護しようとする戦略を裏付けるものと言えるでしょう。

さらに、ソフトバンクグループは OpenAI と合弁会社「SB OpenAI Japan」を設立し、企業向け AI「Cristal intelligence」を開発・提供する計画を発表しています<sup>10</sup>。孫氏は、この AI をグループ内の「統合した大脳」として活用する構想を語っており、将来的には AI に長期記憶を持たせるための基本特許を自身が保有していることも明らかにしています<sup>11</sup>。これらの動きは、ソフトバンクグループが生成 AI 技術を単なる研究開発の対象としてだけでなく、自社の事業変革と新たな収益源の創出のための核心的な要素として位置づけていることを示しています。今回の大量特許公開は、このような戦略的な方向性を具体的な形で示すものと言えるでしょう。

## 8. ソフトバンクグループの競合他社の特許戦略との比較

ソフトバンクグループの特許戦略を競合他社と比較することで、その特徴や独自性をより明確に理解することができます。

### 8.1 通信事業者との比較

国内の主要な通信事業者である NTT ドコモ<sup>12</sup>、KDDI<sup>12</sup>、楽天モバイル<sup>12</sup>も、それぞれ独自の特許戦略を展開しています。NTT ドコモは、5G や 6G といった次世代ネットワーク技術や、AI、XR などの新サービス関連技術に注力しており、標準必須特許の保有数も多いことが特徴です<sup>13</sup>。KDDI は、「オープン&クローズ戦略」を掲げ、通信技術の標準化を推進する一方で、5G を活用した DX、金融、エネルギーなどの分野で差別化を図り、戦略的な特許取得を進めています。また、スタートアップとの共創を重視し、知財支援も積極的に行っています<sup>18</sup>。楽天モバイルは、モバイル事業への新規参入という背景から、海外展開も視野に入れたグローバルな知財体制の構築を進めており、比較的新しい分野での特許戦略を構築している段階と言えます<sup>24</sup>。

ソフトバンクグループの今回の大量特許公開、特に生成 AI に特化した出願の集中は、これらの競合他社と比較すると、より明確な技術領域への集中と、その規模の大きさが

際立っています。他の通信事業者も AI 関連の特許出願を進めていますが、ソフトバンクグループのように、広範な事業領域にわたる生成 AI の応用技術を大規模に特許化しようとする動きは、現時点では特異であると言えるかもしれません。

## 8.2 テクノロジー企業との比較

Google、Amazon、Apple、Microsoft、Facebook といったグローバルなテクノロジー企業も、それぞれが広範な技術分野で積極的に特許を取得しています<sup>28</sup>。これらの企業は、検索エンジン、オペレーティングシステム、クラウドコンピューティング、AI、e コマース、ハードウェア、ソフトウェアなど、多岐にわたる領域でイノベーションを保護し、競争優位性を確立するために特許戦略を活用しています。

ソフトバンクグループの今回の特許大量公開は、特に AI 分野における特許ポートフォリオの急速な拡大を目指すという点で、これらの巨大テクノロジー企業と共通する戦略が見られます。ただし、GAFAM などの企業は、より広範な技術領域でバランスの取れた特許ポートフォリオを構築しているのに対し、ソフトバンクグループの今回の動きは、生成 AI という特定の技術に極めて重点を置いているように見受けられます。これは、ソフトバンクグループが、生成 AI を今後の成長戦略の核と位置づけていることの表れと言えるでしょう。

## 9. 今回の特許大量公開がソフトバンクグループの事業戦略や市場における競争力に与える可能性のある影響

今回のソフトバンクグループによる特許の大量公開は、同社の事業戦略と市場における競争力に複数の重要な影響を与える可能性があります。

まず、知的財産ポートフォリオの大幅な強化は、将来の製品開発や市場参入において強力な基盤となります。特許によって保護された技術は、競合他社による模倣を困難にし、ソフトバンクグループに独占的な優位性をもたらす可能性があります。特に、生成 AI という成長著しい分野において広範な特許を取得することは、今後の市場におけるリーダーシップ確立に大きく貢献するでしょう。

また、大規模な特許ポートフォリオは、他社との戦略的な提携や協業においても有利な立場を築くことができます。特許を相互に利用許諾したり、共同で技術開発を進めたりする際に、自社の豊富な特許資産は交渉力を高める要因となります。さらに、特許はライセンス収入の源泉となる可能性も秘めており、将来的にはソフトバンクグループの新たな収益柱の一つとなるかもしれません。

投資家の視点から見ても、強力な特許ポートフォリオは、企業の技術力と将来性を示す

重要な指標となります。今回の大量特許公開は、ソフトバンクグループが積極的に研究開発投資を行い、革新的な技術を生み出していることをアピールする機会となり、投資家からの信頼と評価を高める可能性があります。

一方で、大量の特許を維持・管理するには相応のコストがかかります。ソフトバンクグループは、これらの特許を有効に活用し、事業の成長に結びつけていく必要があります。単に特許を取得するだけでなく、それらを製品やサービスに実装し、市場で競争力を持つように展開していくことが重要となります。

今回の特許大量公開は、ソフトバンクグループが AI 技術、特に生成 AI を今後の事業戦略の中心に据え、市場における競争優位性を確立しようとする強い意志の表れであると考えられます。この戦略が成功するかどうかは、今後の技術開発の進展や市場の動向、そしてソフトバンクグループの事業化能力にかかっていると言えるでしょう。

## 10. 結論

ソフトバンクグループによる 2025 年 4 月の特許大量公開は、同社の技術戦略における重要な転換点を示す出来事と言えます。note.com の記事の分析から明らかなように、その中心には生成 AI 技術があり、広範な事業領域への応用が模索されています。過去の特許公開傾向と比較しても、今回の規模は特異であり、孫正義氏が提唱する AI 戦略の具体的な成果が形として現れたものと解釈できます。競合他社との比較においても、生成 AI への集中的な注力という点で独自性が見られます。今回の特許大量公開は、ソフトバンクグループの知的財産ポートフォリオを大幅に強化し、今後の事業戦略の展開と市場競争力の向上に大きく貢献する可能性を秘めています。ただし、これらの特許をいかに有効活用し、具体的な事業成果に結びつけていくかが、今後のソフトバンクグループの成長を左右する重要な鍵となるでしょう。

## 引用文献

1. 1 月 1, 1970 にアクセス、  
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/040200003/>
2. ソフトバンクグループ株式会社の特許出願公開一覧 - IP Force, 4 月 5, 2025 にアクセス、<https://ipforce.jp/applicant -150698/publication>
3. ソフトバンクの 1794 件の特許を調べてみよう | 川上成年 / chizai designer - note, 4 月 5, 2025 にアクセス、[https://note.com/ip\\_design/n/n995d924384e3](https://note.com/ip_design/n/n995d924384e3)
4. ソフトバンクグループ株式会社の特許登録一覧 - IP Force, 4 月 5, 2025 にアクセス、<https://ipforce.jp/applicant -150698>
5. ソフトバンクグループ株式会社 特許 特許情報・特許分析レポート - パテント・イテグレーション, 4 月 5, 2025 にアクセス、<https://www.patent ->

[i.com/report/jp/applicant/%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE/](https://www.patentyouridea.tokyo/post/%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE/)

6. ソフトバンクの310件の特許を調べてみよう | 川上 成年 / chizai designer - note, 4月5, 2025 にアクセス、[https://note.com/ip\\_design/n/n070b0ea36086](https://note.com/ip_design/n/n070b0ea36086)
7. 事業紹介 | 企業・IR | ソフトバンク, 4月5, 2025 にアクセス、<https://www.softbank.jp/corp/aboutus/business/>
8. ソフトバンク孫氏発明者特許の公開件数が急増 - よろず知財戦略コンサルティング, 4月5, 2025 にアクセス、<https://yorozuipsc.com/blog/4038734>
9. ソフトバンク、AI技術特許出願1万件宣言は本当か?, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://www.patentyouridea.tokyo/post/%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%80%81a%E7%BC%91%E4%B8%87%E4%BB%B6%E3%81%AE%E7%89%B9%E8%A8%B1%E5%87%BA%E9%A1%98>
10. ChatGPT、高インパクトのバージョンアップ継続で生成AI市場における理想的なプロダクトライフサイクルを確立——ソフトバンクGがOpenAIの月間アクセス数を公開, 4月5, 2025 にアクセス、  
[https://ledge.ai/articles/softbank\\_openai\\_website\\_traffic\\_2025](https://ledge.ai/articles/softbank_openai_website_traffic_2025)
11. 孫氏「日本の大企業からAGIは始まる」ソフトバンクGは第1号..., 4月5, 2025 にアクセス、<https://businessnetwork.jp/article/25708/>
12. 【ドコモ・KDDI・ソフトバンク・楽天を比較】通信キャリア4社の強み・社風・選考の違いとは - Unistyle, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://unistyleinc.com/techniques/454>
13. ドコモの知的財産 | 企業情報, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://www.docomo.ne.jp/corporate/technology/ipr/>
14. 知的財産 | ガバナンス | サステナビリティ - NTT Group, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://group.ntt.jp/sustainability/governance/intellectual-property/>
15. 生体情報の事業活用に向けた特許戦略, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://jpaapatent.info/patent/viewPdf/2988>
16. NTTドコモの特許を分析したらトヨタのスマートシティ構想が見えてきた! 【特許分析】 - Tokkyo.Ai, 4月5, 2025 にアクセス、  
<https://www.tokkyo.ai/tokkyo-wiki/wiki-patent/ntt-toyota-smart-city/>
17. 令和時代の知的財産戦略 - NTT DOCOMO Technical Journal, 4月5, 2025 にアクセス、  
[https://www.docomo.ne.jp/binary/pdf/corporate/technology/rd/technical\\_journal/bn/vol27\\_2/vol27\\_2\\_001jp.pdf](https://www.docomo.ne.jp/binary/pdf/corporate/technology/rd/technical_journal/bn/vol27_2/vol27_2_001jp.pdf)
18. 知的財産マネジメント - KDDI, 4月5, 2025 にアクセス、  
[https://www.kddi.com/extlib/files/corporate/ir/ir-library/sustainability-integrated-report/2022-online/pdf/kddi\\_sir2022\\_j22.pdf](https://www.kddi.com/extlib/files/corporate/ir/ir-library/sustainability-integrated-report/2022-online/pdf/kddi_sir2022_j22.pdf)
19. 知的財産マネジメント | イノベーションマネジメント | KDDI 株式会社, 4月5, 2025 にアクセス、  
[https://www.kddi.com/corporate/sustainability/society/innovation/intellectual\\_pr](https://www.kddi.com/corporate/sustainability/society/innovation/intellectual_pr)

- [operty/](#)
20. 発明の権利はスタートアップに。KDDI が実践するスタートアップ知財支援のあり方とは | IP BASE, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://ipbase.go.jp/specialist/workstyle/page55.php>
  21. 発明の権利はスタートアップに。KDDI が実践するスタートアップ知財支援のあり方とは - ASCII.jp, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://ascii.jp/elem/000/004/229/4229628/>
  22. KDDI はなぜ「スタートアップファースト」を実践できるのか？これからの知財組織に求められるマインドとは【オープンイノベーションの知財戦略】 - TOMORUBA, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://tomoruba.eiicon.net/articles/3949>
  23. 注目のあの話題を徹底解説！知財 TOPICS：楽天モバイルショップの「内装」がモバイル業界では初めて意匠登録 特許庁 広報誌「とっきよ」2022 年 10 月 11 日発行号, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
[https://www.jpo.go.jp/news/koho/kohoshi/vol54/07\\_page1.html](https://www.jpo.go.jp/news/koho/kohoshi/vol54/07_page1.html)
  24. 【知財】特許出願・権利化担当（モバイル事業）知的財産活動をスクラッチから立ち上げ 楽天グループ株式会社 - doda, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
[https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/j\\_jid\\_301197790/](https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/j_jid_301197790/)
  25. 業界、地域を超えて連携する企業知財戦略の潮流, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
[https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/icsFiles/afieldfile/2023/12/13/2312q\\_ishiguro.pdf](https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/icsFiles/afieldfile/2023/12/13/2312q_ishiguro.pdf)
  26. 楽天モバイル株式会社の特許出願公開一覧 2021 年 - IP Force, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://ipforce.jp/applicant-162298/2021/publication>
  27. グループコンプライアンス統括部 戦略事業 ... - Careers, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
[https://rakuten.wd1.myworkdayjobs.com/ja-JP/RakutenInc/job/Patent-application--patent-acquisition---Strategic-Business-Compliance-Support-Department--IP-Strategy-Section\\_1021182-139](https://rakuten.wd1.myworkdayjobs.com/ja-JP/RakutenInc/job/Patent-application--patent-acquisition---Strategic-Business-Compliance-Support-Department--IP-Strategy-Section_1021182-139)
  28. 日本の特許庁（JPO）において最も重要なトピックは, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://w-pat.com/file.html?path=11-2022-c004-3572423679ab77d6328c>
  29. 両利き経営における知財部門の役割 4 回連載(2) - 株式会社ニーズエクスプローラ, 4 月 5, 2025 にアクセス、  
<https://needs-explorer.co.jp/6108/>